

徳川時代の人口—家族システムの地域的多様性と日本家族モデルの誕生

○落合恵美子（京都大学）

家族は日本社会の基礎的構成単位であり、日本文化の中核にあると考えられてきた。日本の経済的繁栄のピークにあった1980年代、日本経済の成功の秘密を解き明かそうと、日本的経営について国内外で盛んに論じられたが、その主要な論調は日本企業を日本の伝統家族であるイエ (*ie*) になぞらえるものだった。日本では家族以外の社会組織も家族の組織原理を模倣して形成され運営されるという主張は、文化人類学者中根千枝のベストセラー『タテ社会の人間関係』(1967) にも見られる。イエについてのこれまでの研究をまとめると、直系家族型の世帯構造、単独相続（特に長男子相続）、家産と家業の維持と家名の存続として具体化される永続性への希求、イエの存続のために全構成員が奉仕せねばならないという集団主義、全構成員を統率する強い家長権、先祖祭祀などがイエという社会組織の特性として挙げられる。

ここで問いが生まれる。このような性質を備えたイエは、日本のどこにでも存在してきたのだろうか。地域的な違いは無いのだろうか。またこのようなイエは歴史的にはいつから存在するのだろうか。歴史的变化については、イエには不変の民族的特質があると主張する論者もいるが、平安時代の宮廷文学を見ても変化の否定は無理があるだろう。イエの成立時期は、貴族および武士層では12世紀頃（平安末期）とされるが、庶民のイエの成立については、12世紀、16世紀（戦国時代）、17世紀（徳川時代初期）、19世紀（明治時代）と諸説があり（坂田聡 2016）、地域による成立時期の違いも大きいことが指摘されている。制度としてのイエが全国に成立した時期についても、村およびその中のイエが徴税単位となった17世紀であるとする説と、それよりはるかに遅く、明治政府が進めた近代化政策の一環で民法が制定された19世紀末を待たねばならなかったという見解があり、その間には3世紀もの隔りがある。

1990年代後半以降に飛躍的な発展を遂げた日本の歴史人口学では、まさにこの3世紀、すなわち徳川時代に焦点を当て、庶民および武士のイエの地域的多様性と変容について、実証的に明らかにしようとしてきた。それほど大きくないこの島国の中に西欧と東欧にも匹敵するほどの人口学的違いがあるのは驚きに値する。しかしその多様性の両端が次第に近づいて、18世紀末から19世紀半ば頃までには、わたしたちが典型的なイエと観念しているようなタイプの家族が全国的に成立してきた。このことがさまざまな地域の研究から明らかとなったのは、さらに大きな驚きであった。近代という時代は国民国家の領内に「標準」をゆきわたらせるプロジェクトを実施するものだが、日本ではそのプロジェクトは近代が開始する前になかば完了していた。このことは日本はなぜ近代への離陸を比較的スムーズに開始できたのかという日本研究の大きな問いにも答えを与えることになるだろう。

本報告では、家族社会学者、経済史学者、人口学者、地理学者等がチームを組んで1990年代半ばから実施してきたユーラシアプロジェクト（*EurAsia Project on Population and Family History, 1995–2000*）と、その後もさらに発展を続けてきた歴史人口学を土台とする徳川時代の家族研究の成果を、地域的多様性とその縮小という観点から概観する。前半では、速水融が提案した3地域仮説に沿って、東北日本、中央日本、西南日本の地域的特性が実証的にどこまで明らかになったのかを示す。後半では、その多様性の縮小とはいかなることかをいくつかの例を挙げて論じる。

報告者はかつて「イエは近代家族か」という論争に参画したことがある。イエは徳川時代初期もしくはそれ以前から庶民層にも存在したので、「イエは近代家族である」と言うことはできないが、徳川時代後期に成立した標準化したイエが近代日本国家の単位となったと言えるという結論に達した。ただしここで成立したイエはヨーロッパの近代家族とかけ離れたものではなかったということも、当時の家族の国際比較から申し添えたい。

なお、本報告は、*Japanizing Japanese Families: Regional Diversity and the Emergence of a National Family Model through the Eyes of Historical Demography*, (Ochiai and Hirai eds., Leiden: Brill, 2022 刊行予定)、および『徳川日本の家族と地域性』（落合編著、ミネルヴァ書房、2015年）、『徳川日本のライフコース』（落合編著、ミネルヴァ書房、2006年）に依拠している。

（キーワード：歴史人口学、3地域仮説、地域的多様性の縮小）